

「ふるさと」の皆さんには

土俵の上の結果で期待に応えたい」

豪風関、初場所を控えて



「(尾車親方)初挑戦は甘くない。しかし、『結びの一番』は力士の夢。勝敗など気にせずに存分に暴れ、豪風という名前が相撲ファンに知られるようになってほしい。小さい体で大きな相撲を取り、これぞ相撲という醍醐味を見せてほしい」……横綱とも対戦する豪風関の初場所への期待を、という問いかけに



▲稽古後、食事をとる豪風関
健康管理には人一倍気をつけている。「ちゃんこ」料理をとる姿にも、「大食漢」のイメージはない。

わんぱく相撲で全国大会 に出場した小学校時代

東北では秋田県出身の力士は少なく、豪風関は鹿角出身の巴富士以来の関取となりました。本市ゆかりの力士としては、古くは坊沢出身の白川徳右工門(1781-1822)、下羽立出身の羽立山永吉(1840-1900)、そして明治から大正にかけて活躍した浦田出身の一湊政五郎(1890-1945)などが知られているだけです。

豪風関の実家は米内沢ですが、子ども時代は鷹巣で育ちました。小学校は鷹巣中央小学校に入学、同小1年生の頃、子ども会の大会などで相撲を始めます。3年生の夏には鷹巣小学校に転校、相撲部に入ります。当時鷹巣体育館で開催されていた大学相撲の選抜大会「全日本大学相撲秋田大会」を見てさらに相撲への関心を高めたのもこの頃で

した。6年生のときには「わんぱく相撲」で全国大会に出場、ベスト16という成績を収めました。鷹巣中学校では相撲部がなかったため柔道部に入部、2年生の途中で森吉中学校に転校します。3年時には全県総体の個人の部で準優勝するなど柔道でも才能を発揮、一時は高校でも柔道が続けたいと思っていたそうです。しかし、「ぜひ来てほしい」と誘われた金足農業高校に入学、再び相撲の道を歩みます。

高校時代(金足農業高校)から 抜き出していた相撲への姿勢

入学式に付き添い、その日相撲部の練習をみた父の三男さんは、小柄な旭さんと比べ一回り大きな部員たちを見て「とてもレギュラーにはなれない」と思ったそうです。しかし、同校の伊藤監督の指導でめきめきと実力を付け、2年時には国体の

で団体3位、3年時にはインターハイベスト8、国体少年の部で5位になるなど大活躍しました。当時同じ相撲部に所属していた日影清悦さん(比内養護学校たかのす分校教員、26歳)は、「同じ下宿に住んでいたが、食事やトレーニングで身体を大きくする努力をするなど相撲に対する姿勢は誰にも負けなかった」と話しています。大学は中央大学に進学、インカレ、国体など7つのタイトルを制覇、平成13年には学生横綱になりました。

大学卒業後、家族の反対を 押し切り大相撲に挑戦

卒業後の進路として、大学3年生までは当時相撲部のあった秋田市役所への就職も考えていましたが、「自分に向き合ったとき、やっぱり相撲しかない」と大相撲へ挑戦する決意をします。体の

小ささを心配する家族は猛反対。しかし一度決めたら一直線に進む性格が力士としての人生を選ばせました。

平成14年、大学卒業と同時に入門した尾車部屋は、不屈の相撲人生を歩んだ尾車親方(元大関琴風)の人間性にあこがれて決めたものでした。

この年の夏場所、幕下付け出しで初土俵を踏み、わずかに二場所(史上最速タイ)十両に昇進、シコ名を本名の成田から豪風に改めます。「豪風」は尾車親方が「小さくまとまらずに土俵に豪快な風を吹かせてほしい」との願いを込めたもので、親方の現役時代のシコ名(琴風豪規)から一字を贈られた名前でした。

けがや病気を克服しながら 快進撃を続ける小兵・豪風

十両でもその期待に違わず快進撃を続け3場所まで幕内昇進を果たしますが、平成15年春場所、右ひざを負傷して休場、続く夏場所も全休し、十両に陥落してしまいます。大相撲入りしてから初めての大きな挫折でした。

豪風関はこのときのことを「けがで2ヶ月間何もできずに気持ちだけが焦り辛い時期だった。しかし療養中、高校時代の伊藤監督から気持ちをしつかり持つように激励を受け、とても励みになった」と語っています。

しかし、けがでの陥落をバネに休場明けの秋場所では13勝2敗で十両初優勝を果たします。千秋楽の一番で負ければ優勝決定戦というプレッシャーをはね除けての優勝でした。

続く九州場所では再入幕を果たし、その後1年ほどは幕内上位を狙い続けます。ところが、平成16年の九州場所の後の冬巡業で左眼の異常を訴え福岡の病院で手術を受けます。放置すれば「網膜はく離」になる恐れのある病気でした。目や頭部への強い衝撃などが原因となるもので、豪風関のような、突き、押しを得意技とする力士に症状が現れることが多いそうです。

手術後は順調に回復、部屋を訪問したこの日も「目はとても状態が良いので心配しないで、と伝えてほしい」と話していました。回復後は5場所のうち4場所を勝ち越し、新番付では自己最高位



▲鷹巣小学校5年生の頃
(平成2年)



▶全日本学生相撲選手権大会で優勝
(平成13年、中央大学4年時)



▲母・絹子さんと父・三男さん

「小学校、高校時代と相撲を続け、自立心や忍耐力が育ったようだ。体が小さいだけに、けがのないように相撲人生を歩んでほしい」と話すご両親。

豪風後援会会員の募集について

豪風後援会では、豪風関の応援のため会員を募集しています。関心のある方であればどなたでも加入できます。多くの皆様のご加入をお待ちしています。
〈連絡先〉事務局 櫻庭博志さん
(自宅) ☎72-4081
(職場) 森吉支所市民生活課 ☎72-3116